

# 沖縄語 かわら版

## 沖縄語を話す会会報

第3号

2004年9月30日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 眞正



2004年7月17日 夏の宴「吉野初枝さんのとーかちお祝い」

「おきなわご沖縄語を話す会」 はな月に二回 かい集まてぬ勉強会、ちち品川 たけーんあちぬ大崎 びんちよーかいをて

・ふる広みらな「しまくとば」-----金城良吉

・ちむ肝ん なだやし灘 な安く くどば成いる言葉-----座覇光子

・たましえ魂 うちなー一 ちゅ沖縄人 さん(3)-----新垣清松

・どし同土 ぞんじぬ恩義-----國吉 徹

・うとすい御年寄 てがみぬ手紙-----國吉（眞）

・じむきょく事務局から

染料インクを使用しています。水濡れにより、変色したり印字がにじみますのでご注意ください。

広がる「しまくとば」

金城良吉（中頭郡西原町）

去る8月15日、浦添をて「沖縄方言普及協

議会」ぬ揃一ぬあいびたん。揃一ぬ御話ぬ中から

「しまくとば」広み一る事にち一て御話うんぬきや  
びら。

揃一ぬ御話ぬ中んかい「しまくとばぬ日」定め  
一る事ど「ふるみらなしまくとば」んで言うバッジ作  
ゆんでぬ事ぬあいび一たん。

くれ一、「しまくとばぬ日」定めて沖縄んかい広み一  
る事にゆつて、子孫ぬ達んかい沖縄口残さんね一  
成らんでぬ事からやいび一ん。

くぬ揃一をて、「しまくとば」んで言う言葉使一に  
ち一て一杯吟味さびたん。「沖縄口」んで言う言葉一  
平生から良一使いる言葉やいび一くと、「沖縄口」ど  
ま  
益しやえ一さにんで言う考一、うりから「沖縄口」  
んで言び一ね一、宮古、八重山一入りららんえ一さに  
んでぬかんげ一とか、また「しまくとば」ぬ「しま」ん  
で言う言葉一離島ぬ島ぬ肝合やあらん、字々ぬ肝  
え一合どやるんでぬかんげ一んで一色々あいび一たん。琉歌  
ぬ中から「思ゆらば里前島どめでいもり島や中  
城花ぬ伊舎堂」読むる御方んめんしえ一び一たん。  
やいび一くと、沖縄んじ使いる言葉一何が益しやら、  
揃一をて決み一る事一成いびらんたしが、先じえ一  
「しまくとば」んで言う言葉沖縄んじ使いる如成い

びたん。御衆様、い一考一ぬあいび一ね一習一ち御  
たび  
賜みしえ一びり。

くりっし御無礼さびら。「沖縄語を話す会」ぬ華一ち  
い  
行ちゆる如願と一いび一ん。



シンボルバッジ

県民に親しまれている左御紋（王家の紋章）を参考に  
デザインしました。  
左御紋の色は真・善・美・聖に基づいて色分けしまし  
た。

- 赤 = 真（人間性）
- 黄 = 善（思いやり）
- 青 = 美（優美）
- 白 = 聖（統合性）

沖縄方言普及協議会発行「ふるみらなしまくとば」キャンペ  
ーンの要旨から載せました。

\*\*\*\*\*~\*\*\*\*\*

沖縄字（ん、そ、と、ふい・・・）にち一て一、終わ  
いぬページ見ち御賜みしえ一びり。

沖縄字ぬ読み方一大切なくとやいび一くと、終わい  
ぬページ見じゃがち一、なるびち声出じゃち読む御  
たび  
賜みしえ一びり。

読み慣り一ね一便利な物やいび一くと、くぬ号ん続  
きて読む御賜みしえ一びり。

肝<sup>ちむ</sup>ん灘<sup>な</sup>安<sup>な</sup>く成<sup>な</sup>いる言葉<sup>くどば</sup> 座<sup>ざ</sup>覇<sup>は</sup>光<sup>こう</sup>子<sup>し</sup> (川<sup>かわ</sup>崎<sup>さき</sup>市<sup>し</sup>)

我<sup>わ</sup>んが沖<sup>うちな</sup>縄<sup>くちなら</sup>口<sup>くち</sup>習<sup>ぶ</sup>い欲<sup>うむ</sup>さんで思<sup>し</sup>やびたしえー、引<sup>ひ</sup>っ  
掛<sup>か</sup>らん如<sup>ごと</sup>っし沖<sup>うちな</sup>縄<sup>くちなら</sup>口<sup>くち</sup>さーに御<sup>う</sup>話<sup>はなし</sup>っし見<sup>み</sup>じ欲<sup>ぶ</sup>さくど  
やいびーん。我<sup>わ</sup>んねー聞<sup>き</sup>ちゆしえーいーくる成<sup>な</sup>いびー  
しが、御<sup>う</sup>話<sup>はなし</sup>すしえー難<sup>む</sup>かさいびーん。

くぬ頃<sup>くる</sup>ん、言<sup>くどば</sup>葉<sup>ん</sup>乱<sup>ん</sup>りて、うりから肝<sup>ちむ</sup>んふが<sup>ん</sup>  
流<sup>な</sup>行<sup>と</sup>る言<sup>くどば</sup>葉<sup>ん</sup>ぬ出<sup>で</sup>じて、あ<sup>ん</sup>すか<sup>い</sup>ー心<sup>くちえ</sup>地<sup>い</sup>ーあ<sup>い</sup>びら  
ん。うれー、我<sup>わ</sup>ん一<sup>ちゆえ</sup>人<sup>あ</sup>ら<sup>ん</sup>で思<sup>うむ</sup>とーいびーん。

くぬ「沖<sup>おきな</sup>縄<sup>な</sup>語<sup>ご</sup>を話<sup>はな</sup>す会<sup>かい</sup>」んか<sup>い</sup>入<sup>い</sup>っち、よーんな  
どやいびーしが、御<sup>う</sup>年<sup>とすい</sup>寄<sup>い</sup>んか<sup>い</sup>いぬ敬<sup>うやめ</sup>一<sup>くどば</sup>言<sup>な</sup>葉<sup>ら</sup>習<sup>ぬ</sup>て何<sup>ぬ</sup>が  
やら、やーやーと成<sup>な</sup>て肝<sup>ちむ</sup>ん灘<sup>な</sup>安<sup>な</sup>く成<sup>な</sup>いびーん。

此<sup>くね</sup>間<sup>だ</sup>んし、何<sup>ぬ</sup>んちが<sup>や</sup>ら大<sup>や</sup>和<sup>ま</sup>ん人<sup>ちゆ</sup>ま<sup>と</sup>でん沖<sup>うちな</sup>縄<sup>う</sup>ぬ御<sup>う</sup>  
年<sup>とすい</sup>寄<sup>い</sup>んか<sup>い</sup>「を<sup>じ</sup>ー」「を<sup>ば</sup>ー」んで<sup>ゆ</sup>ち呼<sup>い</sup>どーいびー  
しが、良<sup>ゆ</sup>一<sup>かんげ</sup>考<sup>い</sup>ーいねー「や<sup>し</sup>や<sup>し</sup>ど、あ<sup>い</sup>ね一<sup>い</sup>言<sup>い</sup>ちえ  
一<sup>と</sup>取<sup>と</sup>らさん<sup>け</sup>ー」んで<sup>うむ</sup>思<sup>い</sup>とーいびーん。

あ<sup>ん</sup>しーねー、「心<sup>くくる</sup>入<sup>い</sup>りっし呼<sup>ゆ</sup>どーいびーん」んで<sup>い</sup>言<sup>い</sup>  
びーん。

沖<sup>うちな</sup>縄<sup>う</sup>ぬ御<sup>う</sup>年<sup>とすい</sup>寄<sup>い</sup>ぬ<sup>ちや</sup>達<sup>ちや</sup>や「如<sup>ちや</sup>何<sup>ちや</sup>一<sup>ちや</sup>るあ<sup>ちや</sup>わ<sup>ちや</sup>りっしくま<sup>ちや</sup>ま<sup>ちや</sup>で  
い<sup>い</sup>生<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>来<sup>い</sup>や<sup>い</sup>が」んで<sup>うむ</sup>思<sup>い</sup>いねー、我<sup>わ</sup>んねー<sup>い</sup>じょーや「を  
じー」「を<sup>ば</sup>ー」んで<sup>い</sup>言<sup>い</sup>ゆーさ<sup>い</sup>びらん。

我<sup>わ</sup>んねー、一<sup>いっ</sup>杯<sup>ぱ</sup>敬<sup>や</sup>て呼<sup>ゆ</sup>て<sup>ゆ</sup>うさ<sup>ぶ</sup>ぎ一<sup>ぶ</sup>欲<sup>ぶ</sup>さいびーしが、  
御<sup>く</sup>衆<sup>す</sup>様<sup>よ</sup>や如<sup>ちや</sup>何<sup>ちや</sup>ぬ風<sup>ふ</sup>儀<sup>ぎ</sup>一<sup>う</sup>ぬ御<sup>う</sup>考<sup>かんげ</sup>一<sup>い</sup>や<sup>い</sup>み<sup>い</sup>しえー<sup>い</sup>びーが  
やー。

我<sup>わ</sup>んねー<sup>わ</sup>解<sup>か</sup>らん事<sup>くど</sup>ぬ多<sup>う</sup>さん<sup>うむ</sup>で思<sup>い</sup>とーいびーしが、  
一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>好<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>ゆる言<sup>くどば</sup>葉<sup>ん</sup>な<sup>い</sup>か<sup>い</sup>「肝<sup>ちむ</sup>苦<sup>く</sup>さん」んで<sup>い</sup>言<sup>い</sup>しがあ

いびーん。我<sup>わ</sup>ん考<sup>かんげ</sup>一<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>や<sup>い</sup>いびーしが、くぬ<sup>くどば</sup>言<sup>ちむ</sup>葉<sup>ん</sup>ぬ肝<sup>ちむ</sup>  
合<sup>え</sup>や人<sup>ちゆ</sup>ぬ肝<sup>ちむ</sup>病<sup>や</sup>み一<sup>い</sup>ねー、ちやー<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>ゆー<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>さーに  
心<sup>し</sup>配<sup>わ</sup>しーが<sup>い</sup>ちー、うぬ<sup>い</sup>病<sup>や</sup>む<sup>い</sup>し<sup>い</sup>分<sup>い</sup>き一<sup>い</sup>んで<sup>い</sup>言<sup>ちむ</sup>る肝<sup>ちむ</sup>心<sup>くくる</sup>ぬ  
あ<sup>ん</sup>で<sup>うむ</sup>思<sup>い</sup>とーいびーん。

くぬ頃<sup>くる</sup>んし、「美<sup>ちゆ</sup>ら<sup>しま</sup>島<sup>島</sup>」「美<sup>ちゆ</sup>ら<sup>うみ</sup>海<sup>海</sup>」んで<sup>か</sup>ち書<sup>か</sup>ちえー  
し見<sup>み</sup>じ<sup>い</sup>や<sup>い</sup>びーしが、うれー、「美<sup>ちゆ</sup>ら」一<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>らん「清<sup>ちゆ</sup>ら」  
ど<sup>い</sup>やるんで<sup>うむ</sup>思<sup>い</sup>とーいびーしが、如<sup>ちや</sup>何<sup>ふ</sup>ぬ風<sup>ふ</sup>儀<sup>ぎ</sup>一<sup>い</sup>や<sup>い</sup>び  
ーが<sup>い</sup>やー。

「美<sup>ちゆ</sup>らさん」んで<sup>い</sup>言<sup>い</sup>しえー<sup>か</sup>形<sup>かたち</sup>ど<sup>み</sup>か<sup>み</sup>見<sup>み</sup>一<sup>い</sup>ゆる<sup>し</sup>姿<sup>し</sup>ど<sup>う</sup>覚<sup>う</sup>  
ん<sup>い</sup>出<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>や<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>びーしが、「清<sup>ちゆ</sup>らさん」んで<sup>い</sup>言<sup>い</sup>しえー、心<sup>くくる</sup>ぬ  
な<sup>い</sup>か<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>出<sup>い</sup>じて<sup>ち</sup>来<sup>よ</sup>ゆー<sup>い</sup>る<sup>い</sup>様<sup>い</sup>子<sup>い</sup>覚<sup>い</sup>出<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>や<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>びーん。

我<sup>わ</sup>んねー、「美<sup>ちゆ</sup>らさん」や<sup>か</sup>一<sup>い</sup>清<sup>ちゆ</sup>らさん」ぬ<sup>いっ</sup>ど<sup>ぱ</sup>一<sup>い</sup>杯<sup>い</sup>  
ゆ<sup>あ</sup>一<sup>あ</sup>当<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>ゆ<sup>あ</sup>んで<sup>うむ</sup>思<sup>い</sup>とーいびーん。

今<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>い</sup>我<sup>わ</sup>んねー<sup>わ</sup>解<sup>か</sup>い<sup>い</sup>び<sup>い</sup>らん<sup>い</sup>た<sup>い</sup>しが、沖<sup>うちな</sup>縄<sup>くちなら</sup>口<sup>くち</sup>習<sup>ぶ</sup>て、  
うぬ<sup>くどば</sup>言<sup>う</sup>葉<sup>ちけ</sup>遣<sup>う</sup>一<sup>う</sup>ち<sup>い</sup>な<sup>い</sup>一<sup>ちゆ</sup>沖<sup>ちゆ</sup>縄<sup>ちゆ</sup>ん人<sup>い</sup>ぬ肝<sup>い</sup>清<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>く<sup>い</sup>生<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>来<sup>い</sup>やる  
事<sup>くど</sup>ん<sup>わ</sup>解<sup>か</sup>て<sup>ち</sup>来<sup>い</sup>や<sup>い</sup>び<sup>い</sup>たん。

く<sup>く</sup>り<sup>く</sup>ら<sup>く</sup>ん、沖<sup>うちな</sup>縄<sup>くちなら</sup>口<sup>くち</sup>習<sup>ぶ</sup>い<sup>い</sup>が<sup>い</sup>ちー、新<sup>み</sup>く<sup>い</sup>に<sup>い</sup>見<sup>い</sup>一<sup>い</sup>出<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>や  
ち<sup>あ</sup>し<sup>あ</sup>味<sup>あ</sup>系<sup>い</sup>一<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>し<sup>い</sup>行<sup>う</sup>ち<sup>い</sup>ゆ<sup>い</sup>し<sup>い</sup>嬉<sup>う</sup>さ<sup>い</sup>誇<sup>ふ</sup>ら<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>そ<sup>い</sup>ーい<sup>い</sup>びーん。



にほんこくみん どっし立身する為に、はまで 標準語覚

て、あんし上ぬ学校ん出じて、ばー会社んかい入っ

ち、ばー仕事ん終わて、な、うみなーく成とーいびーん。

やいびーしが、何がな肝ぬどーきらん事ぬあいび

ーん。今まで沖繩口使いる事ぬ無ーらん大和をてぬ

くらしやいびーくと、うりが肝がかいやいびーてーさ。

まぶい落とちやる如どあいびーる。

にじゅうごにんめー くと 二十五年前ぬ事やいびーしが、会社ぬ仕事ぬ為に

インドネシアんて言う国んかい行ちやびたん。

あまをてー、インドネシアぬ言葉、アメリカぬ言葉、

あんし大和口ど使いびーくと、何がな肝ぬ所ん無ー

ん胴一人暮しやいびーたん。

うちなー ゆ どの おか いっぽんまつ 沖繩んかい寄たる時に「丘の一本松」んて言う沖

縄芝居ぬ録音テープ買て、インドネシアんかい戻て

どー 胴ぬくちやをて、うり聞ち毎夜胴一人笑ーさびたん。

ちやたん かんじゃーやー おーぎ み ことろー 北谷ぬ鍛冶屋や大宜味小太郎やいびーしが、うぬ

ちやたんくとば 北谷言葉んあながちさぬ、また本部ん人ぬ年寄ー

きたしますみこ 北島角子やいびーしが、うぬ本部言葉やてん沖繩覚

ん 出じゃち肝ふじゆる毎日やいびーたん。あんさくと、

してー うちなーくち うびん ちむ のー 次第に沖繩口ん覚出じゃち肝あしがちん直とーいび

ーさ。



わ どーきゅーしー しし うちなーくちなら  
我んねー同級生んかい勸みらつて沖繩口習いる

くとな 如成いびたん。

どーきゅーしー すり うちなーくち はなし  
同級生ぬ揃ーをて沖繩口っし話そーいびーたし

が、ぬーてが言ちよーら解いびらんたくと、〇君ん

かい「何んて言ちよーが」んち問て見じゃびたる事ぬ

あいびーん。

あんしーねー、「何が、ばーや此間ぬいぬ事問とーた

んどーやー」んて言らつたる事ぬあいびーん。

ぬー うちなーくち わし ちびっ みーくち  
「何が、沖繩口けー忘たが」んてち 厳さる目口そ

ーいびーたん。

あんしからうぬ後、U君から何んてちえー無ーん

こくりつこくごけんきゅーしよ 国立国語研究所から出じとーる「沖繩語辞典」ぬ送

らつて来よーいびーたん。

うちなーくちえ わし な  
「沖繩口ー忘てー成らんどーやー」んてち、かんし

どし ちむいり うちなーくち 思て一杯

嬉さいびーん。

やいびーくと、わじゃわじゃ辞典まで送て取らちえー

るむんてち沖繩口勉強そーいびーん。

くねーだ うちなー かん ちやー  
此間一、沖繩んかい行じやいねー、あーかぬ達ぬ

すり ばす ぐえーさちえ うちなーくち  
揃とーる場所をて御挨拶一、沖繩口っしーわどや

っさーんて思て、紙小んかい書ち、気掛きて覚て挨拶

さびたん。



しよーわ にじゅーるくにん くと わ  
昭和二十六年まんぐるぬ事やいびーしが、我ん  
ねー ちゅーがくいちにんしーな  
ねー 中学一年生成とーいびーたん。

うんにーねー、くちんだ いなか じー ゆ  
うんにーねー、東風平ぬ田舎をてー一字や読みゆーさん

うとすえ まん どーいびーたん。うぬ うとすい がいこく  
御年寄ー満どーいびーたん。うぬ御年寄んかい外国

んかい行じょーる子ん 達 から手紙ぬ送らつて来ー

ねー、ゆ 読ごうさぎーしえー わ 我んたましやいびーたん。

あまくまぬ うとすい てがみゆ  
御年寄ぬ手紙読ごうさぎやびたん。

なま ゆー かんげ くと くじゅー  
今ぬ世んじえー考ーららん事やいびーしが、五十

にんあま めー くと  
年余い前ぬ事どやいびーる。

うとすい ん ちゃー ちよーてー ちゃー まー  
御年寄ぬ子ん 達 とか兄 弟ん 達 や何処ぬちねーん、

てーげーちゅい たえ  
大概一人、二人ーハワイ、ブラジル、アルゼンチン、

ペルーんかい行じょーいびーたん。

てがめ やまとぐち か ゆ  
手紙ー大和口っしど書ちえーいびーる。うぬまま読ご

ち 聞かさびーねー、わか 解いびらんくと うちなーぐち のー  
聞かさびーねー、解いびらんくと沖繩口んかい直ち

うさぎらんねー成いびらんたん。

わ ねー おーいたけん けー くにん な  
我んねー大分県から帰て五年びけーん成とーいびー

てーくと、ふーじーちか くとば てーげーい はん  
てーくと、平生使いる言葉ー大概言ちやい反ちやい

な 成いびーたしが、てがみうちなーぐち のー  
成いびーたしが、くぬ手紙沖繩口んかい直すしえー、

ちゅゑーむんやいびーたん。

なまかんげ わらび うちなーぐち いん  
今考ーいねー、童そーいから沖繩口とー縁ぬ

あてーる ちむえー てん わか  
あてーる肝合やいびーさ。天からがやら解いびらん

しが、「やーや うちなーぐちなら 言  
しが、「やーや沖繩口習り」んて言つとーんねーさび

ーん。

第二号の発行の際は大変貴重な原稿をいただき、本  
当に有難うございました。

今回も大変いい内容の原稿をいただき、おかげさまで  
第三号を発行する事が出来ました。感謝申し上げます。

第二号では那覇市在住の伊佐トミ子さんから貴重な原  
稿をいただきましたが、今回も沖縄から貴重な原稿を寄  
稿していただきました。

今回の第三号は西原町で活躍されている金城良吉さんか  
らいただきました。

金城さんは2002年10月に石川県で開催された全国  
生涯学習フェスティバルで初めてお会いした方です。野  
村流古典音楽保存会師範であり、うちなーぐち指導講師  
もされ幅広く活動されております。

沖縄では「ふるみらなしまくとば」キャンペーンを始  
めたようで、文面から、色々議論があったことが良く伝え  
られております。これから貴重な「しまくとば」が広が  
っていくよう願っております。

会報は沖縄文字を使って編集しておりますが、読むの  
は慣れましたでしょうか。特に発音には注意して文字を  
使ってありますので、正しく発音出来るものと思いま  
す。

最近沖縄へ行って気づく事ですが、奇妙な発音に出合  
うことがありました。例えば「縁切ゆん」のことを「い  
んちゆん(犬切ゆん)」と発音するようです。縁を切りた  
いのに犬を切るとは大変ですよ。

最後のページにある沖縄文字一覧と用例にありますよう  
に縁は「iN」で犬は「?iN」ですね。

この会報では縁は(いん)で犬は(いん)と言う具合に  
発音を正しく区別するためにそれぞれ異なる文字を使っ  
てあります。

正しい発音に近づくため、声を出して読まれるようにお  
勧めしております。

今後もたくさんの方の原稿をお待ちしております。  
沖縄文字に慣れるまでは、沖縄文字への変換は事務局で  
行ないます。また原稿は趣旨を変えないで手直しをする  
場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいた  
します。

そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんの  
で会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

お問い合わせ

事務局 國吉 眞正 電話044-988-8065

FAX044-988-8065

[hasama-s8@lime.ocn.ne.jp](mailto:hasama-s8@lime.ocn.ne.jp)

### 第三号

語句の説明（中縄語辞典、広辞苑による）

<sup>すり</sup>揃一：集まり。集会。

うんぬきゆん：申し上げる。

いー<sup>かんげ</sup>考一：良い考え。

なるびち：なるべく。

いーくる：おおよそ。大かた。大体。たいてい。

<sup>ちむ</sup>肝んふがん：満足しない。

あんすか：それほど。さほど。

よーんなー：ゆっくり。

<sup>ぬー</sup>何がやら：何が何だか。

やーやーと<sup>な</sup>成ゆん：静まる。また、ほっと安心する。

<sup>ちむ</sup>肝ん<sup>なだやし</sup>灘<sup>な</sup>安く成ゆん：心もおだやかになる。

<sup>ぬー</sup>何んちがやら：どうしてか。

やしやしと：やすやすと。容易に。

<sup>くくるい</sup>心入り：好意。親切。

<sup>ちゃ</sup>如何ーるあわり：どんなつらいこと。どんな苦勞。

じょーや：とても。とうてい。

うさぎゆん：さし上げる。

<sup>ちゃ</sup>如何<sup>ふーじ</sup>ぬ風儀：どのように。

<sup>ちむえー</sup>肝合：意味。わけ。理由。

<sup>ちむ</sup>肝病むん：心を痛める。

ちゃーまじゆーん：いつも一緒（に）。

<sup>ちむちゆ</sup>肝清らさん：心がやさしい。恵み深い。

<sup>うっ</sup>嬉<sup>ふく</sup>さ誇らさ：うれしく喜ばしいこと。非常なうれしさ。

はまゆん：励む。没頭する。

うみなーく：安心したさま。心配がなくなったさま。

<sup>ちむ</sup>肝ぬどーきらん：心が解けない。釈然としない。

<sup>ちむ</sup>肝がかい：心掛かり。気掛かり。

まぶい：魂。靈魂。

<sup>ちむ</sup>肝<sup>とくる</sup>ぬ<sup>ね</sup>所ん無一ん：心の居所がない。心配などで心が

落ち着かない。

くちゃ：若夫婦が寝室として使う部屋。

あながちさん：なつかしい。

<sup>ちむ</sup>肝<sup>めーにち</sup>ふじゆる毎日：満足する毎日。

<sup>ちむ</sup>肝あしがち：心がいらだつこと。

<sup>ちびっ</sup>厳さん：きびしい。厳格である。

<sup>みーくち</sup>目口：表情。顔つき。

<sup>ぬー</sup>何ん<sup>え</sup>ぢえ<sup>ね</sup>無一ん：何ということはない。何と言う理由はない。

<sup>ちむい</sup>肝煎り：好意。親切。

<sup>えー</sup>か：親戚。親類。

<sup>ち</sup>気<sup>が</sup>掛きゆん：精出す。励む。

まんぐる：ころ。おおよそその時を示す。

うんにーに：そのおりに。その時に。

<sup>ゆ</sup>読<sup>う</sup>さぎーん：読んでさし上げる。

たまし：銘銘の分。持ち分。

あまくま：あちこち。あちらこちら。

ちねー：家庭。家族。

<sup>い</sup>言<sup>はん</sup>ちやい反ちやい：言ったり答えたりすること。

ちゆ<sup>えー</sup>むん：大変なもの。えらいもの。

# 沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と [tu] 　とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と [hwe] 　とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と [to] 　とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ [he] 　へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど [du] 　どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や [ja]* 　やー(君、お前) やん(言わない)
ど [do] 　どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や [ja] 　やー(家) やん(である)
と [ti] 　とーち(一つ) とーだ(太陽) とん(空)	ゆ [ju]* 　ゆん(言う)
て [te] 　てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ [ju] 　ゆんたく(おしゃべり)
ど [di] 　ふど(筆) むーどー(喉) どきやー(秀才)	よ [jo]* 　よーいー(おさな子)
で [de] 　でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	よ [jo] 　よーんなー(ゆっくり)
ふ [kwa] 　ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	わ [wa]* 　わー(豚) わーちち(天気)
か [ka] 　かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ [wa] 　わーむん(私のもの)
ふ [gwa] 　にんふん(念願) ふんく(頑固)	ゐ [wi]* 　ゐー(上) ゐーりきさん(面白い)
が [ga] 　がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	ゐ [wi] 　ゐきが(男) ゐなく(女)
く [kwi] 　くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	ゑ [we]* 　ゑーきー(金持ち) ゑんちゆ(ねずみ)
き [ki] 　きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	ゑ [we] 　ういゑー(お祝) わじゃゑー(災い)
く [gwi] 　くーく(越来「地名」)	ん [N]* 　んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ [gi] 　かーぎ(容ぼう)	ん [N] 　んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなど(港)
く [kwe] 　くー(鎌) からじくー(髪きり虫)	い [i]* 　いん(縁) いだ(枝)
け [ke] 　けー(かゆ) ちけー(使者)	い [i] 　いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
く [gwe] 　くったい(ぬかるみ)	ち [u]* 　ちど(夫) ちーじ(さとうきび)
げ [ge] 　げー(害) にげー(願い)	う [u] 　うと(音) うーび(帯)
ふ [hwa] 　ふー(葉) なーふ(那覇)	え [e]* 　えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は [ha] 　はる(畑) はぎもー(荒地)	え [e] 　えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ [hwi] 　ふじやい(左) ふーと(いるか)	お [o] 　おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ [hi] 　ひやみかすん(えい、と言う)	を [o] 　をーじ(王子) をーれー(往来)

[ ]内は沖縄語辞典による読み方

(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

\* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 　とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。